Hospital Report

社会福祉法人
恩賜財団大阪府済生会吹田医療福祉センター

大阪府済生会吹田病院 消化器内視鏡センター

【住　　所】大阪府吹田市川園町1番2号
【病 院 長】岡上 武 先生
【病 床 数】500床（ICU6床、新生児集中治療室6床、新生児強化治療室および回復期治療室10床含む）
【内視鏡スタッフ】消化器内科医師（常勤）14名、内視鏡看護師 7名（技師 2名）、看護助手 4名（技師 1名）
【内視鏡検査・治療総数】（平成19年度）上部内視鏡検査数　5264例、下部内視鏡検査数　3019例、ERCP　133例（うち処置76例）、EUS　75例、内視鏡的止血術 上部 133件・下部 33件、上部ESD 66例・下部ESD 33例、下部EMR520例、シングルバルーン小腸内視鏡検査 2例、経鼻内視鏡検査 45件
【保有内視鏡総数】上部用 27本、下部用 18本、十二指腸用 4本、EUSスコープ 4本

地域で最も信頼される内視鏡センターを目指して 安全で機能性の高い診療環境を追求

地域に最先端の内視鏡診療を提供するため 消化器内視鏡センターが誕生

消化器内視鏡センター 科長
（消化器内科 部長）
水野 智恵美 先生

済生会吹田病院は、高度化・多様化する医療ニーズに応えるため、平成10年に現在の吹田市川園町に新築移転しました。平成20年には専門性の高い治療を効率的に患者様へ提供することを目的とした、診療科の枠を越えた臓器別診療センターが始動しました。現在では消化器内視鏡センターを含め全診療部門で6つのセンターが稼動しています。

消化器内視鏡センターではこれを期にスペースを一新し、検査室は4室となり、うち1つは処置室として、止血などの緊急検査にも対応できるようにしました。また、全ての検査室には高度な観察能をもつハイビジョン内視鏡システムを配置しています。このうち2台はNBI機能と超音波内視鏡システムを搭載しており、高度な内視鏡診断治療を目指しています。また、検査室は個室感覚で患者様のプライバシーを確保し、リカバリースペースにはリクライニングシートを配置し、検査後に患者様がゆっくりとくつろいでいただけるように配慮されています。消化器内視鏡センター科長の水野智恵美先生は、「改築にあたっては現場の意見を集約し、スタッフにとっては効率的で使いやすく、また患者様には安全でリラックスして検査を受けていただけるセンターを目指しました。従来の問題点を一つずつ丹念に解決していった結果、レイアウトや設備面で納得のいくセンターが実現できたと思います」とお話になりました。同センターの特色として、人材が豊富なことが挙げられます。内視鏡学会認定指導医2人、専門医4人が中心となり、内視鏡検査・治療・指導にあたっており、高い医療技術につながっていると思います。また、同センターは水野先生を含め内視鏡学会専門医の女性医師が3名在籍しているため、特に大腸内視鏡検査に抵抗を感じられる女性の患者様にも安心して検査を受けていただくことができるよう配慮されています。

“顔の見えるコミュニケーション”実現のため 開業医向けの勉強会を定期的に開催

吹田市では同院を含めた市内の4つの“がん基幹病院”と医師会が協力して「大腸がん早期発見パス」を作成し、市民の健康維持を促進する取り組みを始めていますが、同センターもここで中心的な役割を担っています。水野先生は、「地域の開業医の先生方に安心して患者様をご紹介いただけるよう、検査の詳しい内容については事前に詳細をFAX等で連絡するなど、コミュニケーションの強化を図っています。また、消化器内視鏡センターが具体的にどのような検査や治療を行うのか分かりにくいというご意見もありましたので、地域の開業医の先生方に対して定期的に勉強会を開催しています。その際にはセンターのスタッフ全員に参加してもらい、こちら側の顔が見えるコミュニケーションを実現することでより信頼関係を深めるようにしています」と、地域連携の重要性について語っていただきました。

Boston Scientific
Delivering what's next.™

スタッフの高いスキルと役割分担の徹底が安全で効率的な内視鏡検査を実現

年々増加する症例を安全かつ効率的に実施するために、同センターでは役割分担を明確化したチーム医療を促進しています。まず看護師は検査前室で行う前処置などの業務を中心に行い、内視鏡技師は検査室で医師の介助的役割を担っています。これにより、患者様の検査がスムーズに行えるようになったそうです。また、一検査室に対して終日同一のスタッフを配置し、医師とのコミュニケーションを緊密にしました。毎朝、担当医師とその日の検査の流れを具体的に打ち合わせをすることで、処置具などの準備を前もって行い、効率的に検査を施行しています。内視鏡技師の保坂彰子さんは、「私たち内視鏡技師は感染管理や処置具の適切な使用方法など、常に最新の知識やスキルを身につけて日々の業務に活用する役割を担っています。そのため、スタッフのうち必ず誰か一人は技師学会や各種セミナーに参加し、事後に伝達講習を行ってスタッフ全員の知識向上とスキルの標準化を図っています」とお話になりました。このような高い意識の下、同院では早くからガイドラインを遵守したスコープの洗浄消毒や処置具のディスポーザブル化に取り組み、また洗浄履歴の記録や業務のマニュアル化を徹底し、安全性の確保に努めています。

最後に水野先生は、「病院でありながら、患者さんに"また来たいな"と思っていただけるような、そんなセンター作りを目指しています。人材にも恵まれていますので、当センターの長所を最大限に活かし、患者様そして地域の開業医の先生方に頼りにしていただける、温かく質の高い医療を提供できるよう努力していきたいです」と述べられました。

消化器内視鏡センターの皆さん

内視鏡技師
（看護部外来主任）
保坂 彰子 さん

吹田病院が発行している情報誌「かけはしプラス」

© 2008 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.